



完成した加茂・田上病児保育園、後ろは建て替え工事中の加茂病院新病棟

主な内容

- 病児保育園建物が完成 …………… ②③
- 病児保育園業務開始は 10 月 22 日…… ④
- 加茂市史 資料編 5 民俗 発売中…… ⑤
- 第 42 回市民大学講座 …………… ⑥⑦
- 加茂の風土記「川蒸気の加茂新田寄港」⑧

百年に一度の唯一の好機！

新加茂病院に産科の個室 20 室を確保しました！ 妊婦の方々は、皆 個室を希望しています。

新加茂病院の隣りに病児保育園を確保しました！ お金は加茂市と田上町が負担！

この二つこそ絶対必要な少子化対策！

産科の個室が 1 つでは、医師も妊婦もやって来ず、産科は実現しません。



## 病児保育園 建物が完成

六月二十一日、加茂・田上病児保育園の建物が完成し、竣工式が開催されました。施設は、現在建て替える工事が進められている県立加茂病院の新生通り側の隣接地に建てられ、加茂病院が完成するとアーケードで結ばれる予定です。

病児保育園は、病気の子供さんと病後の回復途中にある子供さんが対象です。幼児から小学校六年生までの児童が、保育園、幼稚園、小学校へ行けるようになるまでの間、預けられる施設です。

式典で、小池清彦加茂市長は「病児保育園については、以前から保育園や保護者からの強い要望があったのですが、現場で診察していただけの医師がいないので実現できずにおりました。加茂病院が建て替えられることになった機会に佐藤田上町長さんと私が泉田知事さんに、加茂市と田上町で病児保育園をつくり、加茂病院からめんどうを見ていただきたいとお願いいたしましたところ、快く御承諾をいただきました。その後建設する場所のことで、県との折衝が長びきましたが、当時の自民党新潟県連会長の星野伊佐夫先生が、





山田尚彦 新潟県三条地域振興局長 (新潟県知事代理)



菊田真紀子 衆議院議員



金谷國彦 県議会議長



小池清彦 加茂市長



佐藤邦義 田上町長



滝澤茂秋 加茂市・田上町消防衛生保育組合議会議長



内覧会に訪れた方々



お力で、加茂病院の隣接地の現在の場所に建てることになりました。保育園長さん方、区長さん方をはじめ、御尽力をいただいた方々に心から感謝申し上げます。」とあいさつしました。  
病児保育園は、隣接する芝生の庭や駐車場の整備ができていないので、文化会館を式典会場としてステージで完成を祝うテープカットが行われました。午後二時からは、市民の皆さんから見学していただくための内覧会となり、七月一日までの期間中、大勢の皆様からおいでいただきました。

## 待望の

# 加茂・田上病児保育園

来る10月22日

## 業務開始



加茂病院の隣接地に建設した加茂・田上病児保育園が十月二十二日（月）から業務を開始します。

午前十時からテープカットを行い、一時から病児の受け入れを始めます。

加茂・田上病児保育園の建設は、平成二十七年一月、小池加茂市長と佐藤田上町長が当時の泉田裕彦新潟県知事にお願いしたところ、快く承諾していただき、進んでいきました。

しかし、その後、新潟県は加茂病院の前面のところの狭い敷地を提示しただけで協議に応じないままでした。

このような状況のなか、当時の自民党新潟県連会長で県議会議員の星野伊佐夫先生のお力で、新潟県との協議が一気に進展して、平成二十七年十二月二十一日に妥結し、加茂病院の隣接地に現在の加茂・田上病児保育園が建設されることになりました。

また、隣の鳥新様のご厚意により、その敷地を譲り受け広い庭と駐車場が整備されることになりました。

加茂・田上病児保育園の業務開始後は、内科医・小児科医の加茂病院の秋山修宏

院長が病児の診察等を行ってくださいます。

秋山先生がお休みのとき（一年間に五日位）は、加茂病院に小児科医が不在となりますので、必要な場合は、職員がお子様を市内の小児科医のところへ診察にお連れします。

加茂・田上病児保育園を利用する場合は、入院の必要のないお子様であるという医師からの「連絡票」をもらい、病児保育園にお連れすることになっています。

この「連絡票」は、国の定めでは、小児科医に限らず、あらゆる診療科の医師からもらえることになっていますが、現在加茂市医師会と調整中です。

なお、加茂・田上病児保育園の住所は加茂市青海町一・十一・三で、電話番号は四七・〇七〇五です。

第三平成園や加茂農林高校の前の通りを新潟市方面へ向かい、新生通りとの三叉路を過ぎてすぐの左手側にあります。

市民バスの場合、猿毛・西加茂西部線と長福寺・希望ヶ丘線のバスで「病児保育園前」バス停をご利用ください。



# 加茂市史

なつかしい里謡さとうた なつかしい民謡・楽曲・校歌  
踊りや神楽の映像も収録  
大水害や上水道完成の映像も収録  
これで滅びようとした多くの文化が  
後世に伝えられる

DVD・CDのディスク六枚に記録満載！  
CDもDVDプレイヤーで聴けます  
これぞ民衆の歴史！  
民俗学の決定版！  
ぜひ各戸にこの一冊を！

資料編5 民俗

好評発売中



加茂市の諸施設で  
販売しています

6枚のDVD・CDディスク付きで  
1,098頁の大作が 1冊 3,500円の格安です！

◆新潟県加茂市◆



# 第四十二回 市民大学講座



今回で四十二回目を迎える市民大学は、五月二十八日から七月十六日まで、毎週月曜日午後七時から八回の講義がありました。

各分野で活躍されている方々から、研究・開発のエピソード、知られていない物語を短い時間でお話ししていただきました。受講生からは「これから注目しておくキーワードは何か」などの質問をされてきました。

この市民大学講座は、生涯学習活動として「いきいき県民カレッジ」の登録講座になっています。

## 第一回

「物は言いよう、気の持ちよう、言葉の力は想像以上」

(株)新潟放送アナウンサー

石塚かおり

ラジオの仕事では、言葉や音で、その情景を伝えることになります。インタビュウの経験から、会話を楽しく続けるには、「はい」「いいえ」しかない質問はせず、想定外の答えに対応する言葉や知識を



第一回講師の石塚かおりさん

たくさん持っていることが秘訣といえます。

## 第二回

「調理を科学する」野菜の摂取における調理の意義」

新潟大学教育学部准教授

山口智子

調理とは「料理する」と同一視してしまいがちですが、野菜などの食材一つひとつの特徴を生かすため、加工・技術であると言えます。また、栄養や健康的な摂取方法を考えることも含まれ、自ら調理することで、脳の活性化、認知症予防にもつながります。



第二回講師の山口智子さん

第三回  
「足からの健康とくつ下の可能性」

(株)山忠代表取締役社長

中林功一

(株)山忠は昭和三十三年に創業した靴下メーカーです。「足は健康の基本」と考え、足の専門家と研究を重ね、商品開発をしてきました。そこで得た感想として、足の皮膚がきれい、健康的な弾力があり、足の指がしっかり動かせる筋力があることが、健康の目安になるのではないかと思います。

#### 第四回

「ルレクチエの美味しさ」

新潟大学農学部準教授

元永佳孝

ルレクチエ栽培の歴史は明治三十三年、現在の旧白根市の小池左右吉がウラジオオストクから持ち込んだとされています。国内では栽培・追熟の難しさから、ほぼ新潟県内でしか栽培されていません。生産者の出荷管理軽減のため、光センサーなどを利用した機械選果ができないか研究が行われています。



第四回講師の元永佳孝さん

#### 第六回

「熱意 全国へ向けての取り組み」

新潟経営大学男子バスケット

ボール部ヘッドコーチ

田巻信吾

スポーツの指導者は、試合や練習内容から失敗を早く自覚し、その対策は選手を含め大勢へ説明、理解を得ることが大切です。学生スポーツの指導者としては、競技だけでなく、卒業後を見据えたことも話題にすることで、個人・チームとも成長していくと感じています。



#### 第五回

「あなたの知らない歯ひふへは

〜歯の不思議からひもとく

健口の大切さ〜」

明倫短期大学歯科衛

生士学科教授 山田隆文

歯は、体の中で唯一自然治癒ができないため、治療ではなく予防が大切です。最近の傾向として、健康診断や総合病院内に歯科衛生士がいて、歯科健診や相談できる機会が増えています。歯の健康は、歯槽膿漏など口の中だけでなく、糖尿病、心臓病、誤飲性肺炎などにも影響してくるものです。

#### 第八回

「妖怪になった人たち

〜酒呑童子伝説を中心に〜」

新潟県民俗学会理事

高橋郁丸

京の都で悪事を働く酒呑童子は越後の生まれという伝説。物語によれば、国上寺で育った美少年で、恋文を燃やした煙にまかれ妖怪になったとあります。元は人でも、乱暴者であったり、多くの恨みを受けた者は人でなくなるが、人によって退治されるという末路のお話となっています。

#### 第七回

「若者力を活かした加茂・県央の

魅力あるまちづくり〜大学生の

地域貢献の可能性〜」

新潟経営大学経営情報学部

教授 中島 純

大学と地域の協働で学生目線から「観光誘客」に取り組んでいます。内容は、加茂を紹介するプロモーションビデオの作成で、今年第2弾「県央カフェめぐり」を制作しています。これらを市内の方からも観ていただいて、市外県外の友人知人へ加茂を紹介するのを利用していただきたいです。



第七回講師の中島 純さん



# 川蒸気の加茂新田寄港

今年の大河ドラマ「西郷どん」

で、薩摩藩が西欧の進んだ科学技術の基礎ともいえる溶鉱炉や蒸気機関の製造に取り組む様子が放映された。黒船来航を機に、幕府も西南雄藩も、人と物の大量・迅速輸送手段である蒸気船を所有したことで、戊辰戦争が越後や関東・東北・北海道という広範囲の地で戦われることになった。この蒸気機関を利用した船は川蒸気、鉄道

開化を推し進めた楠本正隆県令の勧めで、新潟町の商人らが「新潟川汽船会社」を設立し、英国から輸入した木製外車式輪船の「魁丸」を信濃川（新潟・長岡間）に就航させた。明治七年（一八七四）十月のことである。途中寄港は、与板・三条・小須戸の三か所で、従来の和船が三日程度かかったのに比べ、上り（長岡行き）十一時間、下り（新潟行き）八時間と、画期

的な早さであり、文明開化のけん引役を担った。

加茂は、箆筒・建具などの木工品や織物類、あるいは七谷和紙・渋紙や屏風など、製造業の盛んな地だった。加茂の製品輸送に川蒸気利用を企図したのが、加茂町の商家紅屋生まれの小池内広で、淀川汽船（大阪）から購入した「和唐丸」を新潟・三条間に就航させ、加茂新田を寄港地とした。開業年月は不詳だが、小池が明治十年一月に和唐丸の船内で事故死しているから、就航はその前ということになる。

加茂新田の加茂川川口地帯は、対岸の保明新田（田上町）の附け洲「保明島」と一体混然となっていて、明治六年には保明新田との間に「保明橋」が架設されて田上地域との往来が便利になっていた。江戸時代から、加茂川用・信濃川用の船が荷物を積みかえる場所でもあり、信濃川対岸の五反田との渡し場でもあるなど、川船稼ぎを生業とする家も多かった。こうした条件のもとで、加茂新田に川蒸気が寄港することになったのである。

（溝口敏彦）

## 加茂の風土記

新潟県の文明象徴的存在となった。



加茂新田の川蒸気停船場跡。今では五反田橋架橋や護岸工事により停船場の面影はない。（昭和61年刊行の「ふるさと歴史散歩」より）

### 社会福祉費寄付金

▼故・諸橋昇様ご遺族から

三万円

あいちとっ

### 人口のうごき

6月1日現在  
 世帯 10,280 (+ 4)  
 人口 27,436 (-42)  
 男 13,330 (-19)  
 女 14,106 (-23)  
 ( ) 内は前月比  
 (5月異動分)  
 出生 10 (男 4 女 6)  
 死亡 37 (男17 女20)  
 転出 53 転入 38